

みさと雑学大学

歴史講座「二郷半領の徳本上人について」

～再考・三郷と徳本上人。歿後 208 年～

小林 將

はじめに

・成田山 ・リトライ ・今も三郷市内の徳本碑を誰も知らない。

1、徳本上人とは

・「徳本上人」をご存知ですか。

<資料 1> <資料 2> <資料 3>
参照

2、三郷の徳本上人と私

<経緯・時間の流れ>

平成 27 年 3 月	「徳本上人碑」を市内で発見する。	「10 年前」
平成 28 年 8 月	『三郷市史研究葦のみち』27 号に発表する	「公開」
平成 28 年 9 月	「みさと雑学大学」で講義	「解説」
平成 29 年 2 月	「三郷市文化財保護審議会」で講義	「陳情」
平成 29 年 10 月	★ <u>徳本上人 200 回忌</u>	
.....		何も不変。「コロナ」
令和 7 年 9 月	「みさと雑学大学」で再講義 (一橋治済が思い出させてくれました)	「リトライ」
令和 9 年 10 月	★ <u>徳本上人 210 回忌</u>	

3、徳本上人と一橋治済（ひとつばしはるさだ）のこと

・一橋治済は、徳本上人の「最大・最強のパトロンだった」

[＜資料4＞](#) 参照

＜一橋家との事件＞

①**貴賓門騒動** …あの一橋治済（生田斗真）にさえ全く怯まなかった徳本上人。

当時、徳本上人 57 歳。一橋治済、64 歳。

②**慈徳院（治済の妻・将軍家斉の実母）の快癒**

③**上方帰国騒動**

④**一橋治済の願い**

＜参考＞

		徳本上人	一橋治済
文化 11 年	1814	57 歳	64 歳
文化 15 年 (文政元年)	1818	61 歳 歿	68 歳
文政 3 年	1820		70 歳
文政 10 年	1827		77 歳 歿

＜江戸期の古地図＞

・幕末：嘉永 7 年（1854）…徳本上人歿後およそ 40 年後の語るもの。

4、埼玉県内の徳本上人名号塔

●市指定文化財

市町村	指定	指定日	住所	所在地	備考
さいたま市	有形文化財 (歴史資料)	昭和 55 年 3 月	さいたま市緑区大門	大興寺 (真言宗)	・旧浦和市 ・「六阿弥陀」の一つ。
戸田市	有形文化財 (歴史資料)	昭和 60 年 5 月	戸田市中町	常福寺 (浄土宗)	・「六阿弥陀」の一つ。

上尾市	有形民俗 文化財	平成 22 年 3 月	上尾市平方	馬蹄寺 (浄土宗)	・3 基一緒に指定。
	有形民俗 文化財	平成 22 年 3 月	上尾市今泉	十連寺 (浄土宗)	
	有形民俗 文化財	平成 22 年 3 月	上尾市五番町	相頓寺 (浄土宗)	

●新披露・旧足立郡六弥陀仏

- ・足立郡（武州）内に「名号石六本」を建て「六阿弥陀」と称す。
- ・六ヶ所八武州足立郡の六阿弥陀として起立す。此外に赤山源長寺八六阿弥陀の供養塔と称して都合七ヶ所なり。

	地名	現住所	所在地	宗派	現状	造立年	備考
1	川口	川口市舟戸町	善光寺	真言宗 (他宗派)	なし		・『川口大百科事典』に記載があるがわからない
2	戸田	戸田市中町	常福寺	浄土宗	在り ◎	文化 13 年 (1816) 3 月	・戸田市指定文化財
3	中尾	さいたま市緑区 中尾	吉祥寺	天台宗 (他宗派)	在り ◎	文政 4 年 (1821) 10 月	・「何故この寺にあるか不明。先代から聞いていない」
4	大門	さいたま市緑区 大門	大興寺	真言宗 (他宗派)	在り ◎	文政 4 年 (18221)	・さいたま市指定文化財
5	戸塚	川口市戸塚	三仏寺	浄土宗	在り ◎	文化 14 年 (1817) 2 月	・大切に保管。
6	青木	川口市上青木	専称寺	浄土宗	在り ◎	文政 4 年 (1821) 11 月	・参道から隅に片付けられていた。放置。
7	赤山	川口市赤山	源長寺 *	浄土宗	なし		・「わからない。徳本碑はない」。

* 源長寺の名号石の脇に行者の御歌（を刻む）

辞世の句：「南無阿弥陀仏 生死輪廻の根を断ハ 身をも命もおしむへきかは」

●越谷市と松伏町の徳本上人名号塔

	現住所	所在地	宗派	現状	造立年	設立母体	備考
1	松伏町 上赤岩	無量寿院	真言宗 (他宗派)	在り ◎	文化 14 年 (1817)	念仏講中	・無縁墓の近くに置かれていた。台座なし。・本来、徳本上人生前の記録

					1 月 15 日 (<u>徳本上人</u> <u>生前</u>)		に幾度も出て来る寺院（とにかく、 「名号書」を欲していた）。
2	松伏町 築比地	宝藏院	真言宗 (他宗派)	在り ◎	文政 10 年 8 月吉日	念仏講中	・大切に保管。
3	越谷市 西新井	西教院	浄土宗	在り ◎	文化 14 年 (1817) 6 月吉日 (<u>徳本上人</u> <u>生前</u>)	講中	・徳本上人生前の名号塔。徳本上 人自らが「開眼供養」を実施した。 由来の有るもの。

5、三郷市にある徳本上人碑（徳本上人名号塔）

[＜資料 5＞](#) 参照

所在地	造立年	石工	講中	備考
谷口 (私有地)	<u>文政元年</u> (1818) 冬 10 月	戸ヶ崎石工 林幸右衛門	41 名 (寄進者)	・総高 2.5 ㍓ ・旧名主家の広大な墓地の入口に在り。 ・江戸期の阿弥陀堂跡地ではないか。 ・「名号書」の拝受 年数： <u>文化 14 年 (1817) 12 月</u> 場所：文京区一行院 講名： <u>二郷半領矢口 (谷口) 講中</u>

おわりに

- ・令和 9 年、徳本上人の「210 回忌」
- ・「越谷市」で 2 体の「不動明王像」

【資料編】

＜資料 1＞ 六字名号とは

・平成 28 年 9 月「みさと雑学大学」の「資料」

.....

「六字名号（みょうごう）塔の発見」

○六字名号とは、「南無阿弥陀仏」（浄土宗・浄土真宗）

「南無とは、帰依します」という意味です。

その他には

「南無妙法蓮華教」（日蓮宗・題目）

「南無大師遍照金剛」（真言宗）

「南無釈迦牟尼仏」（曹洞宗・なむしゃかむにぶつ）

「南無八幡大菩薩」

○江戸後期（文化・文政期）徳本上人の「流行り念仏」が一大ブームとなりました。

まず、関西（上方）で流行り、文化 11 年（1814）に江戸にきました。

徳川家斉（いえなり）の帰依を得ました。

文化 11 年（1814）～文政元年（1818）の足掛け 5 年間滞在し、亡くなりました。

＜資料 2＞ 徳本上人とは

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』（一部加筆修正）

○**徳本**（とくほん）は、江戸時代後期の浄土宗の僧・念仏聖。号は名蓮社号誉。紀伊日高郡の出身。徳本上人、徳本行者とも呼ばれる。念仏行者として全国を巡錫し「流行り神」と称されるほど熱狂的な支持を集めた。

○略歴

・宝暦 8 年(1758)。現・和歌山県日高町志賀に生まれる。

・天明 4 年（1784）27 歳。得度し徳本と称する。草庵に住み、1 日 1 合の豆麦粉を口にするだけで、ひたすら念仏を唱え続け、他に例のない過酷な修行をし、行場跡も多く残っている。独学で念仏の奥義を悟ったといわれている。

・寛政 6 年（1794）37 歳。世に知られるようになり、全国行脚を開始。巡礼において

★「道歌を交えて教えを説いた」ため、民衆から大きな支持を得た。

★徳本の念仏は、木魚と鉦を激しくたたくという独特な念仏で「徳本念仏」と呼ばれる。各地に巡錫して熱狂的に迎えられ、

★「流行神」と称されるほどの人気となった。

「生き仏」を拜むがごとく、一般大衆から大名まで広く崇敬を受けた。巡錫は「近畿、東海、関東、中部、北陸」など、驚くほど広い範囲におよび、

★上人の足跡を物語る石碑（名号塔・念仏碑・念仏塔）は、全国各地に 1500 基以上確認されている。
徳本上人は独特な字で「南無阿弥陀仏 徳本」と書き、信者たちに分け与えた。それを石に刻んだのが名号塔である。

- ・文化 11 年（1814）57 歳。江戸増上寺典海の要請により江戸小石川伝通院に住した。一行院では庶民に十念を授けるなど教化につとめたが、特に大奥女中で帰依する者が多かったという。
- ・文政元年（1818 年）10 月 6 日 61 歳。一行院にて没する。墓所も一行院である。

＜資料 3＞ 文京区一行院のこと

『浄土』2006/4 月号（法然上人鑽仰会）

.....

「寺院紀行 東京千石一行院」

- ・「徳本上人が入る前のこの一行院は、ある文献には『廃寺』と表記されるように、さびれた草庵だったようですから、徳本上人を中興開山として以後は（世代を）かぞえているのです」
- ・「徳本上人は・・・霊験あらたかな念仏行者として多くの人々を救い、世に広く知れ渡った名僧です。その名僧が江戸に呼ばれ伝通院に住します。念仏行者としての徳本上人の人気は絶大なものがあり、上人から「十念」や「名号札」を授かって病氣平癒や安産、家内安全などの利益を受けようと、江戸庶民から大奥の女中たちまでが伝通院に押し寄せ、そのあまりの信者の多さから上人が（大阪の）勝尾寺に帰るということになったのです。それを引き止めたのが、第 11 代将軍家斉公で、実母の病を治して貰った徳本上人にこの江戸に留まって欲しいと、一ヶ寺を用意したのですが、それがこの一行院だったのです」
- ・「江戸時代は 3 代将軍家光公の時に、既に『新寺建立が禁止』されていて、将軍といえども徳本上人のために新しくお寺を建立することはできなかった。そこで、家斉公は伝通院に近いところにあるお寺を探し、この一行院に住してもらうことにしたのである」。
- ・「こうして、草庵のようなお寺は、一瞬にして生れ変わった。
2,000 坪の境内地、山門前の坂道の向こうにお寺用の畑として 800 坪、少し離れてはいるが北区の西ヶ原にはお寺用としての田んぼが 2,000 坪。
弟子も多い名僧を迎え入れるため、将軍によって準備万端、全てが揃えられたのである」

<資料 4> 徳本上人・江戸滞在と府外教化(化益)

回数	年数	西暦	干支	スタート	帰国	日数	目的	県名
	文化 11 年	1814	甲戌	6 月 12 日	●関西（上方）から小石川伝通院到着。57 歳			
1	文化 11 年	1814	甲戌	9 月 21 日	10 月 23 日	28 日間	「塔ノ沢」湯治	神奈川
2	文化 12 年	1815	乙亥	5 月 27 日	5 月 30 日	3 日間	「下総行徳」化益	千葉
3				8 月 26 日	10 月 24 日	58 日間	「伊豆相模」化益	神奈川・静岡
4	文化 13 年	1816	丙子	2 月 17 日	3 月 7 日	20 日間	「下総」化益	千葉
5				3 月 20 日	9 月 7 日	167 日間	「信州・飛騨・加賀」化益	埼玉・群馬・長野・岐阜・富山・石川
6	文化 14 年	1817	丁丑	1 月 23 日	4 月 2 日	69 日間	「北諸国」化益	千葉・埼玉・栃木・群馬
7				7 月 17 日	10 月 10 日	83 日間	「下総」化益	千葉
8				11 月 2 日	12 月 10 日	38 日間	「川越」化益	埼玉・神奈川
	文化 14 年	1817		12 月 23 日	●小石川一行院落成。		外護者・一橋治済（はるさだ）。三田・増上寺。	
	文政元年	1818	戊寅	10 月 6 日	●示寂す。61 歳			

・徳本上人は、足掛け 5 年間しか関東にいなかった（そして亡くなった）。

徳本上人は帰郷の意識が強かった。

<資料 5> 谷口の徳本上人名号塔

・平成 29 年 2 月の「三郷市文化財保護審議会」の「講義資料」

.....

<解説>

三郷市谷口の徳本上人「六字名号塔」

○本石造物は、江戸後期（文化・文政年間）に全国的に流行した徳本上人の「徳本念仏講」が造立したものである。

当時の「谷口講中」が、文化 14 年（1817）に、文京区一行院で徳本上人から染筆「六字名号」（南無阿弥陀仏）を下賜されたことが伝わっている。

その翌年・文政元年（1818）10 月に徳本上人は亡くなられた。それに合わせて、谷口講中は徳本上人

の遺徳を顕彰するために、地元戸ヶ崎石工・林幸右衛門に依頼し、徳本上人の供養塔（墓標形式）を造立したものである。

本石造物は、その「独創的な形状」と「由緒来歴」が伝わり、当時の二郷半領の民間信仰を伝える**地元ならではの文化財**といえる。

○「独創的な形状」とは、

各地の「六字名号塔」の形状は、基壇に「角柱型」や「自然石」を立てることが多かった。その中で、本石造物は、基壇 2 層に八角形反花座（かえりばなざ）・敷茄子・受花座（うけはなざ）に「円柱型」の塔身を立てていること。そして、円柱型の塔身の正面に、「南無阿弥陀仏 徳本（花押）」を刻み、裏面には無縫塔を模した浮彫りがある。そこには徳本上人の僧名と没年を刻んでいる。

台座には、谷口講中 41 名の連名と石工名・造立年月を刻んでいる。

＜資料 6＞ 埼玉県内の徳本上人名号塔

＜戸田市＞

総高 2 メートル



＜さいたま市＞

総高 3 メートル



＜三郷市＞

総高 2.5 メートル

